

# 専門医による診断 重要

病院の実力  
九州編

## 病院の実力「腰と首の手術」

医療機関別2012年治療実績  
(読売新聞調べ)

医療機関名	①腰椎間板ヘルニア	②腰椎間板ヘルニアで切開除手術のうち	③腰椎管狭窄症	④腰椎管狭窄・腰椎管狭窄形成手術	⑤脊髓腫瘍
総合せき損セ	188	46	404	20	18
北九州市立医療センター	120	120	110	100	10
佐田	65	64	98	96	5
北九州中央	55	40	105	55	5
おみや整形外科医院	50	46	169	91	0
九州厚生年金	45	44	112	83	1
福岡整形外科	38	38	52	47	0
福岡大	20	3	72	0	7
戸畠共立	24	19	13	0	0
岡産業医大	21	10	74	4	19
長崎大	20	3	72	0	7
済生会福岡総合	19	0	51	0	3
福岡青洲会	13	0	44	0	1
うちかど脳神経外科ク	10	10	25	23	11
福岡山王	8	0	7	0	0
聖マリア	6	0	15	0	7
福岡徳洲会	1	0	0	0	1
佐賀記念	122	116	162	123	2
唐津赤十字	43	40	59	33	2
賀佐賀大	20	17	32	22	3
長崎労災	183	145	196	66	9
三菱長崎	130	123	135	128	6
長崎大	77	1	28	2	4
長崎百合野	66	64	103	91	1
菅整形外科	54	46	38	36	0
島原整形外科西村ク	35	35	47	47	1
貞松	35	30	79	17	0
日本海員長崎掖済会	2	2	24	3	0
成尾整形外科	181	96	289	3	7
熊本中央	84	55	152	37	3
熊本労災	60	60	178	156	7
本九州記念	38	38	57	44	0
熊本大	7	3	55	20	22
熊本機能	1	0	0	0	0
大明野中央	115	79	106	1	—
大分赤十字	6	3	30	0	2
大分大	3	0	51	3	6
県立宮崎	27	0	72	0	8
宮ごとう整形外科	26	14	27	15	0
崎前原	18	18	21	21	0
潤和会記念	17	0	28	0	4
整形外科米盛	99	0	94	0	1
南風	85	24	195	0	3
春陽会中央	81	72	86	1	1
今給黎総合	67	29	38	10	5
わきだ整形外科	67	65	79	33	0
やなせ整形外科	49	1	84	0	0
整形外科三愛	29	9	14	2	0
鹿児島大	9	8	22	8	29

「セ」はセンター、「ク」はクリニック。日本脊椎脊髄病学会と日本脊髄外科学会が認定する指導医がいる施設などを対象に調査。

病院の実力について、読売新聞が行った全国アンケートの結果を毎月掲載する「病院の実力」。1月は「腰と首の手術」がテーマだ。日本脊椎脊髄病学会と日本脊髄外科学会がそれぞれ認定する指導医がいる施設などを対象に、2012年の手術件数を尋ねた。

地域版では「腰椎間板ヘルニア」「腰椎管狭窄症」の手術と、それについて患者の体に負担の少ない「低侵襲手術」の内訳、さらに「脊髓腫瘍」の件数について掲載した。

### ■出血少なく痛みも軽い

腰椎間板ヘルニアは、腰の骨と骨の間にクッショニング役を担う椎間板が飛び出して神経を圧迫することで、痛みや

病院の治療実績について、読売新聞が行った全国アンケートの結果を毎月掲載する「病院の実力」。1月は「腰と首の手術」がテーマだ。日本脊椎脊髄病学会と日本脊髄外科学会がそれぞれ認定する指導医がいる施設などを対象に、2012年の手術件数を尋ねた。



腰椎間板ヘルニアの内視鏡手術  
(北九州市立医療センターで)

## 腰と首の手術



写真では、低侵襲手術を積極的に導入して

しづれを引き起こす。手術は、飛び出した椎間板を取り除くのが基本だ。

北九州市立医療センター整形外科部長の吉兼浩一さん

は「骨を固定する方法を飛ばさない」と利点を挙げる。

腰椎管狭窄症は、腰の骨をつなぐ帯が厚くなったり、椎骨がずれたりして、神経が通る脊柱管が狭くなる病気だ。手術では、骨を削つて神経への圧迫を取り除く。

腰椎管狭窄症でも内視鏡手術が広がっている。

骨が不安定でヘルニアを取り除くだけでは、腰椎管狭窄症で骨の不安定性を伴うすべり症や側弯を伴い、骨が取れない場合②腰椎管狭窄症で骨を削るだけでは、症状が十分に回復しないか、再手術が必要に選択される。何度も手術を受けている場合にも、それ以上悪化を防ぐため固定することがある。

小西さんは「骨を固定するのは大がかりな手術。危険も高まるため、絶対に必要かどうかは患者と医師がよく話し合って決めることが大切です」と話す。

「病院の実力」は今回から、九州の専門医の意見を織り交ぜて、丁寧に治療法や予防法を説明します。全国の調査結果は「くらし健康面」に掲載しています。次回は2月2日、「頭頸部がん」の予定です。

■ます保存療法で様子みる

腰椎間板ヘルニアは自然に治ることも多い。腰椎椎間板ヘルニアも腰部脊柱管狭窄

症もまずはコルセットの装着や痛み止めの薬で様子みるのが基本だ。

■脊椎を固定する場合もまた、腰椎椎間板ヘルニア

や腰椎管狭窄症の手術では、脊椎を固定する方法を用いる場合もある。

長崎労災病院(長崎県佐世保市)副院長の小西宏昭さん(飯塚市)整形外科部長の前田健さん(写真)は「手術はしっかりと固定する。まひは、症状が強く期間が長引くと、手術をして回復が難しくなるため注意が必要だ。専門医による

骨が不安定でヘルニアを取り除くだけでは、腰椎管狭窄症で骨を削るだけでは、症状が十分に回復しないか、再手術が必要に選択される。何度も手術を受けている場合にも、それ以上の悪化を防ぐため固定することがある。

小西さんは「骨を固定するのは大がかりな手術。危険も高まるため、絶対に必要かどうかは患者と医師がよく話し合って決めることが大切です」と話す。

「病院の実力」は今回から、九州の専門医の意見を織り交ぜて、丁寧に治療法や予防法を説明します。全国の調査結果は「くらし健康面」に掲載しています。次回は2月2日、「頭頸部がん」の予定です。